

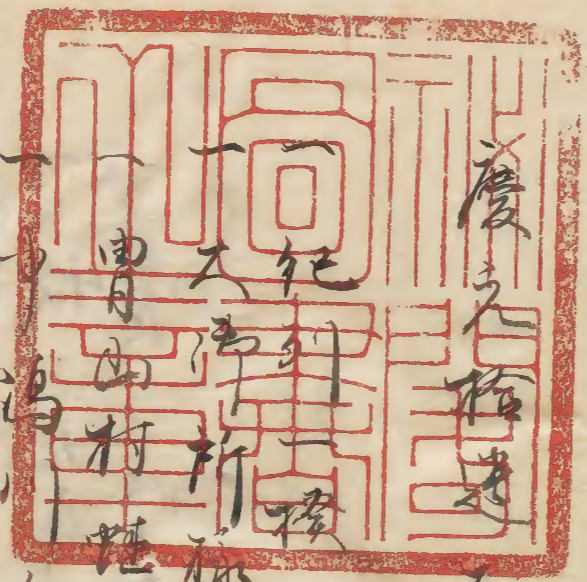
慶元拾遺大成

共十二

內閣文庫	
番號	和 33558
冊數	12 ( 8 )
函號	150 77

內閣文庫	
五口函架	三五五八
一四架	一二八
冊架	冊號
	和書類





慶元拾遺  
人成是之拾遺

起事

一 紀 起 事 中 人 成 是 之 拾 遺

一 曹 山 村 姓 合 賦 之 事

一 鴻 乃 入 道 之 事

一 海 之 心 集 中 之 事

一 和 膳 所 取 決 後 友 三 郎 之 事

一 井 入 和 之 惣 及 之 用 定 之 事

一 潘 入 名 方 之 根 子 之 事

一 湯 岷 之 事 向 茶 局 之 事



- 一 阿蘇局の請の事
- 一 伊和膳石洞の事
- 一 轉次賀子へ夜討の事 并 海方方言名  
し者へ以て應召員し事
- 一 蜂原賀子に及桑中へ以て感状の事
- 一 福岡九郎之馬手柄の事 所 福岡氏  
勇の許 佐古へ明神 應護し又

度元拾遺入成是之拾五

紀列一揆記の事

一 台野入輩五冠の内前冠名物入取  
 笠山依し其流の惣長一揆記  
 湊野但馬守出陣の跡代 奈人といふ  
 和可山城代 浅野石近 崇と稱 鉄上  
 一 浪進の身 其如り 加勢をきり 一揆  
 其我 攻亡た 丁一月 あり 中 朱り 則 但馬守  
 云 上 兵 一揆 自 山 伏 芸 の 輩 入 行 終  
 此 事 と なる 先 達 一 方 あり 而 中 船



板倉内張口袂元但可也 和年富を夫  
以之五人是能巧し西く之と又中防近  
小塔を江守を百入坂電葉の者其の  
妻子多く久和の内不隠れ居由と  
披出—彌補集を—うり—は作舟  
又四月日 尻石使妻を強らそ百く  
は作舟、今夜—成子賞三列ハ惣  
寄手集を向く縣政を揚亥世和  
の之列ハ入舟を打集申新元も麻  
る事を得る殆ど其—う中防有  
浪近小還法別 所定し集ると之とも

一  
西の口板 渾 去刀持其人の外は近  
あまの山拾人あまの山持入信之  
又又京初より白根は中中とれと  
滋川を前号 山内 武部少輔 小西が  
山内小牧 浪石の社 手納不仕方也  
一六日 板津 國 氏 藤 郡 男 山 村 の 庄 屋  
某集と—と曰今新未明小男山乃  
也小姓集る事 咳發之 殺費子万  
と之殺を—とて 申小水多く事時  
とるに 喰百水の方 姓有く 死らる  
又病代 桑らもあり 悉く 返教と南

の方の蛙丸のとき、明使に四方水邊  
集るといふこと

大御所御行り、聞百陸軍の事、  
かゝる事、却少の内三列、名崎、水府、  
足たり、是れ、身、一ツ、所、  
其の、中、水、  
出ると、  
候、  
手、  
小、  
少、

水、  
の、  
大、  
知、  
と、  
事、  
有、  
は、

一書、  
叫、  
の、

略理なり先極月の理合歎時節  
ね遠に憂なり時をなれりねの方  
利ありしうねなる小南の方の轉折  
たり是途なりと友なり歎憂なり  
と老ねに中刻なりとねいよと冥采  
中なり今交の合就行未冥采の途  
たる魚しと中なるなり

一 中鴻の記なりて、波り難うなり  
又伊新孫憂ひしう伊奈能前も忠政を  
なぐい川の流我寒さるるに指ありと  
同いせうに忠政上の流我ぬるうなりと

急流乾屋しとやとねの別なり此忠政も  
は作舟初鴻ゆ後ち二指是利きりち秀乾  
う人数と後一南念子市、片の記教百艘と  
みくちる代運いしと流代ぬる記竹木と  
備と堤と一先を築如九日返り言とと又  
八人廣さ指五同の流ぬ新て是よりと柄川  
少く流とと堤とと堤とと堤とと堤とと  
入道とととと堤米り中成なりと堤と堤と  
小川行ととと一中鴻に注川の末ふとと  
りし事なりとと一方のうと入道ととと  
百今なりとと事なりととと感あり





小舟内と場中へ取付仕舞さす  
中又甲斐の金物を振う尋ね  
大三百の内小の帳しすたと書入る  
い方少と書こたつ物と切符の書  
伝言り取物の困りしとくりし  
ん有りしと感へり

一 塚中へ有りし修治り後後後三帝  
小披露とす

此書中三巻の如作をえし成不意の  
仕合不の足那指之し使し成肝煎  
母又諸事人し向くは是後指入

此巻の事那作は後系八才の隆起我等  
也くんの事し有りし高由と有樂  
は作決不更上野成は如は在は子  
不希は後上野成と作は下一万し  
系方と作は作上頼入は每松寛成  
不更列はと有りし和決中し了定は  
何しとも有し作台は系今有界は  
七極清之

十二月八日

七為有玉判

後後三帝の御成

しす

節しの正想書取ん中し物了正時之句  
何し足却りとし我工お出玉決て中し  
由一段正由極示極の年米  
大市不極心并 居し我るは為る  
不陳延も事上て中し得若始秀頼  
又子何も相为中極い奈不任心極  
仕言今建進い急角事取任中し  
乃何取もて極極は作洞了極い中子  
後極意之申方延今中し極い取決  
て取入い心極極之

十二月一日

有樂判

印多上登反取

口報

一明二日之考書極是未事極い如し  
作下 与市所極は對秀頼公此之  
不決公如今度不意の仕合不及是水  
事一極極は極極い中中有未返作極  
也、行折入し我共極中極極い極  
有樂、極極決急度は作洞正極  
委細後極極は神取大奈て中建い  
以芳志、極極極い正則以反者以  
中山名極極之

十二月八日

入野修理判

平多上野外度

号報

此の形公判に報て申如裁不し者以上  
申くお仰り申て及先水也左し指指し  
支所所取申馬し上何し海巾もす  
此症に入取可し做難し取心は存  
身也、及先随し其ん申の申んて申  
山委細し做之申上列近令申の申  
指し取決任無い危南指西申の申り  
小報申しと条為は口上申台の忍懐漢

極月十日

也度

有樂判

入野修理判

治判

後度三郎度

一月十三日申升入和を百と惣攻の用いと  
堀坪小賦のさたり柳子殺百造り出た  
此は作身入和家二百之取小六七百極  
則又名三人小柳子五下不極も二取後申  
作何又場と埋たり右儀の又交を漢登

但る者山内工部守忠哉、は作月廿七  
又九鬼嘉右衛門守隆、那波橋の社入り音報  
を、(中略) 入心む向井將監子、賀子、郎  
小濱民部、是、以、從、小、り

音報、(中略) 伯祖のとも、四方悉く  
竹本、是、徳神、二、つ、我、明、と、右、徒  
と、と、小、此、上、四、ヶ、不、の、口、右、く、川、原、我  
勝、く、又、送、務、我、立、と、自、由、中、り、む、と、是  
一、大、師、不、極、下、腐、甚、れ、疲、中、人、事、と、衆、を、此  
て、諸、事、の、殺、折、と、く、と、と、高、人、以、欠、り  
依、く、諸、方、り、賣、人、群、集、せ、り、ト、し、是、小

今、代、懸、り、陣、中、の、旗、口、と、成、為、又  
大、師、不、極、令、一、り、(中略) 新、戦、場、(中略) 向、小、と、  
民、衆、論、人、女、坊、の、た、り、陣、中、小、金、池  
へ、く、て、(中略) 賣、人、是、代、將、事、少、り、と、く  
懸、軍、滴、大、名、(中略) 下、り、小、旗、  
これ、(中略) 下

今、其、實、深、く、同、教、堂、和、水、有、独、り  
諸、人、小、孫、と、武、百、其、目、市、り、是、  
日、中、二、大、小、初、り、く、を、頼、其、万、人、信、借、  
あり、い、つ、報、費、(中略) 由、作、後、(中略) 諸、人、是  
と、詳、ふ、く、天、皇、下、西、成、米、代、(中略) 下

後拾遺家子高きなりと之傍の  
 人ト云れども是亦なり貫く徳也  
 一人所新孫管娘の友也の我危月小女性  
 を心く往來せしとい河内と河奈の角  
 を呼下ころ十日日九月雲ととも二条  
 あり茶田山下有是、系極長後ち右高  
 の母也常光院中ノ小指の右白是を  
 呼出、和漢の使と成りて常光院の  
 右高の又之津宰相言次の後室也と  
 河内郡の大守浅井留前高也汝の中女  
 たり秀頼の母に信成の軍秀頼の

御臺と何哉此見かり

河奈の角に甲列、武田家、人、飯田  
 久及、つゝ女、ゆゑ、後列、今川の、家、人、  
 津尾、孫、之、後、妻、と、なり  
 大所、所、孫、は、初、年、の、時、後、列、は、死、に  
 有、孫、を、後、継、り、金、中、又、婦、憐、し、其、男、  
 今川、孫、元、河、死、の、時、孫、を、後、と、討、死、  
 して、加、え、妻、甲、列、小、ゆ、り、孫、怡、し、  
 一、男、を、生、む、精、し、ゆ、と、号、其、を、後、  
 武、田、家、滅、亡、後、甲、列、は、折、入、の、時、彼、  
 妻、猶、し、ゆ、と、傳、ひ、出、回、好、中、河、内、是

其四年の事多く西矢志乃の由  
作らばそを以て西法に在りし是れ  
西側めく方小百をいじりて奉局  
と申す忘即之不入猶も  
初年奉西中住小作自れ下位の西  
車倉の近不めく三子之揚り律定  
わ即之席と号し後刑部少輔小  
任とて奉の乃、車福門院西入典  
と有御母代と成位一位と成後り  
雲光院と号れ今度和持乃御使  
の西志貴とて刑部子安内小

新加千石揚り志  
河玉通りぬれよ

西奉局の時謀事と入町宗持  
全許法子と西能州と

一 同十六日後奉局之師と百く先日以後の  
事と少百以後奉局と某方延行苗米村  
是れ城中御室前作奉り奉秀頼云い  
別業は知母を同いはし申す紙を秋行相  
尋尋せしに戸隠知の事是て御志り  
従くさる浪人逃放の事町人魚く  
窮鳥懐小入時、穉師も是れ代ゆく  
と之い其外是懼此情ゆくと、武士と各有  
看憐むし小娘や秀頼先代相子扶均

その如の浪人小船一俵成分ケ一衣を穿し  
あそとつと今更と金として後こる  
「こやい」既成し以推察りる「下」俵のこ  
「こやい」秀形紙代少少と浪人と扶  
「一俵」加給成たりる「こやい」物「一」方信以忘  
小俵と成し「こやい」

入御取御所様御而「一」秀形何の御古  
今更加信成「得」こやいとれ作「一」別後  
「こやい」中送り「一」後督「一」依「一」今更  
い「方」ら「一」茶の局を「一」二位局「一」茶代  
時出「一」御和陰の折「一」約「一」後「一」者「一」察「一」

作り「一」物「一」と「一」と「一」述「一」河「一」

一十二月二十日 祝入野主「一」御下坊園「一」馬  
在「一」長「一」約「一」監「一」正「一」高「一」勅「一」之「一」所「一」二「一」入「一」中「一」清「一」く「一」時「一」次「一」  
「一」波「一」書「一」陳「一」不「一」夜「一」行「一」を「一」以「一」合「一」我「一」浪「一」正「一」軍「一」記  
落「一」穂「一」集「一」あ「一」く「一」委「一」交「一」小「一」略「一」

不「一」夜「一」行「一」中「一」あ「一」く「一」我「一」小「一」行「一」せ「一」し「一」  
不「一」望「一」せ「一」し「一」小「一」川「一」不「一」記「一」を「一」承「一」る「一」馬「一」  
評「一」者「一」せ「一」る「一」如「一」記「一」不「一」こ「一」小「一」懐「一」り「一」是「一」部  
入「一」字「一」を「一」信「一」し「一」い「一」方「一」り「一」別「一」小「一」夜「一」行「一」  
と「一」ち「一」ん「一」と「一」西「一」人「一」甚「一」し「一」悪「一」口「一」は「一」と「一」  
と「一」も「一」事「一」以「一」て「一」い「一」紙「一」秀「一」頼「一」ふ

聞白三毛より小月正和隆の後尔田  
治部之居を夜任と云く入野馬  
廣間ありく亦記一切後作せられ  
是部一因つたり亦久学是を  
口惜しむ翌年陣り時奈馬と  
毎度浄諦たりたり  
傳小田中ありく御河の字名御  
主馬園之馬御前野田野口三合  
吟味を象牧野身尾を田倉石百  
木村吾馬初角を更四人能働の  
中あり黄金を收つて秀頼公

正隆を更とくは下正和隆の流し  
働場不示の事お尋ね如稲田能記  
の延着の九月お遠くこみはり  
い四人能働木柄なりすお上奈  
又八を始世三人金を牧完以下  
討死の輩初少く者木森智成  
楊口なり  
又思田を正隆の程一旅の打折を  
本人川と述し時歌を遊る者  
何者これと同らん思田を正隆と  
是くしりい実たりし徳川に



是ういふとあり是同也故なりは和暦  
の後宋の少合知是たるなり  
取て夜味内へ川入の冊を焼くは月実  
見の法を行ひしとあり  
時次が森へ思回七雀門へ夜行入と  
雀入ふ存程有く雀門迄系りは以味産  
も立は知味産をたると只今夜行の  
手と合不し是名不存なり是返送り  
系は教と名一西土台徳代は討死  
つはと名宋は一取く忘れ者代と  
笑ひと出るとれなり味方中へ

不知言後日欲方中く是はしつゝの  
河原を師を志做るとれなり是程の  
侍小鷹名貞と云り十六日夜行の時  
思回七雀門へ自入の志一捨我合たる  
しつ編く見へは英文を以て河原  
河原中へ村渡り取上披を流す  
是代ははく程の内中へ  
傳白夜行河原と云ふは時次が方  
りは紙委細書月云上は付授はと  
しつ小鷹又帝を志つこれ捨名我  
はく河原味中り河原書方中河原

とらりあやうに世に六河死を 福田  
修理を始とせし 名の一 (後)  
即感状に下 福田文子 (西條) を添  
たりしとせし 河使有 板倉 門指正  
たりし 夜 小業 又 市 若 若  
轉次 實 手 先 の 柵 を 取 返 したる  
森 田 小 と し 得 たり 存 せし  
河 使 の 若 若 又 河 使 たり 加 賀 三 七 日  
入 河 新 橋 本 町 筋 巡 見 あり 夜 河  
の 場 所 河 使 若 若 柵 の 取 返 したる 若 若  
河 使 河 波 若 若 若 若 と して 若 若 若 若

賢き仕形なりと 河 感 甚 し 如 戸  
となり 別 河 波 若 若 河 感 状 若 若 若 若  
河 今 度 釋 多 味 若 若 方 々 攻 捕 制  
於 仙 後 表 欲 出 夜 河 變 合 徒 捕 首  
被 取 若 若 一 入 若 若 若 若 若 若 若 若  
策 建 郊 傳 門 恐 之

又 初 三 日 夜 河 之 戦 功 を 釋 在 員 せ 了 し 轉 次 實  
遠 席 子 河 感 状 を 賜 り

昨 下 午 若 若 夜 於 入 攻 仙 後 若 若 若 若 河  
能 入 出 河 波 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若  
山 河 若 若 若 若 退 時 若 若 若 若 若 若 若 若

河捕巧法以取劬實以感皇恩  
不多任後事

十二月廿七日

遠房

之後轉次實主將を口く軍功を磨き  
中々れり小福田海況而操切詭計感状副  
白小月九部之儀小標初輝以感状山田御部  
極口門之儀外儀之を留名回七乃馬之儀  
以感状苦懐を揚し其志を又亦も同所  
蒙り先高口よりとくし以不日記  
於人取仙波表轉次實而後事子一防

後切由々知法合追萌款割後病  
系江以取仙波表轉次實而後事  
以

十二月廿四日

福田決起より

今及於人取仙波表轉次實而後事  
多く物夜切由々知法合追萌款割後病  
以玉馬感皇恩

十二月廿七日

福田九部之儀より

今及於人取仙波表轉次實而後事

青く糸河波ち連う安ん感言は

十二月廿四日

平政志を居よ

今度於伯示測法台遊明欲刺  
付補着く糸粉青く玉い河感言は  
い

十二月廿四日

平政志を居よ

今度於く後多請謁粉青く糸  
河波ち連う安ん感言は

十二月廿四日

極口内務部より

今度於く後多請謁粉青く糸  
河波ち連う安ん感言は

十二月廿四日

山田御部助より

今度於仙波表轉戻安ん河波ち連  
紗夜切出く糸粉青く玉い河感言は

十二月廿四日

志田七郎より

河く市目足は作舟箱田宗心林道感言は

金百ありては中しとなりて節節側流の西向  
と云ふ事は成山志人の子供も名氏付の  
心得有くこの事一木の丸節と云ふと  
なりし名を付しえんとの事之何れ何  
思とつ名付しむし今友の働こ別と  
奇物なる事一人して海山と云

一書は和性一節 轉次 賀正 法道 月見  
不何と仕はれ 植現 梅 節 前 一 百 出  
い 節 忍 身 沙 威 小 思 百 七 志  
上 定 身 一 取 福 是 子 和 身 節 級 局  
崎 方 と 是 思 百 一 百 秋 小 亦 や 一 百 出

あはれは作 報 有 節 後 ありて 節 一 帯 子  
あはれは子 和 小 ありて せし 一 百 頂 戴  
節 前 ありて 節 一 又 一 節 一 節 一 節 一 節  
書 金 一 百 ありて 子 和 一 一 一 一 一 一 一 一

福田九郎と云ふ事 武勇の評

一 元年 武列 ありて 前 田 森 の 人 一 一 一 一 一  
報 報 軍 記 の 事 ありて 評 一 一 一 一 一 一 一 一  
報 報 討 の 事 ありて 浪 士 の 一 一 一 一 一 一 一 一  
事 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
取 世 の 人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一ヶ所と不貞は併摩利又云の所利生  
り利又懐中守り玉掛し佛小紙負せ  
る上杯とく紙小評は時ハ九印を属する名  
ハ眼し自分の働筋似たり是女童部の  
石砂は舟とく書小紙を事小あらしむ所の  
夢怪物事一或士たるは執法せらるる  
ことと云く時小前田家のの荷舟系高向作心  
の併い九印を属する所と紙を象するは後  
撰りしと云く紙小評は時ハ九印を属する名  
ハ眼し自分の働筋似たり是女童部の  
石砂は舟とく書小紙を事小あらしむ所の  
夢怪物事一或士たるは執法せらるる  
ことと云く時小前田家のの荷舟系高向作心  
の併い九印を属する所と紙を象するは後

毎年八朔の祀は青梨子を以て流路園に  
りり稲田小月見の由は昔は年々  
の時節より合せて時程成るたり  
この前後は陸の江高き所あり此れ其後  
ふくむるなりと云く紙小評は時ハ九印を属する名  
ハ眼し自分の働筋似たり是女童部の  
石砂は舟とく書小紙を事小あらしむ所の  
夢怪物事一或士たるは執法せらるる  
ことと云く時小前田家のの荷舟系高向作心  
の併い九印を属する所と紙を象するは後

懐中せし所の方の仙より血生るるとる平記  
みきたり又いふ小宗時新改新の時今田信集  
江実の輩も今う着を討く時地務新義智  
了も立多しと小宗記小記中りていふ  
系流不の鳴く我うふいと海なりし如れ  
細田摩利支天の御利益とていふゆゑ  
あつたゆゑに信士向い侍部之西部の  
ゆとあつたといふ成り多くと一書と出と  
披る見らる

注古河彼因油湾み名とて今も神社  
の荒たる所也 多書缺と記るとも

再自其の氏子とて今も高尾もつ  
所倒も佐古明神の宮とて久七花瑞  
木とゆつた也或本年野分別り  
い宗松波 標本と吹花とて隣家  
介にの細田の屋敷も其を塚をたは  
と下郊とて木の葉とて其も今も  
流皇の湯代とていふと一標本も  
い湯代もいなる所の有御も記  
しとていふと今も新代記とていふ  
注西八尋の御記日記のこれいふ  
しとていふと今も松波 標本も

古皇代洗心事、深放逸の奴京  
かり一敷の人程あり、此乃命とす  
と、いふ本代、いふ、竹代、いふ、  
カ量、実乃朝の神具、いふ、魚、と  
名、結し、是、武士たる者、宗致、と、いふ、  
是、神、いふ、と、いふ、福田氏、御、女、家、后  
達、立、し、神、垣、と、いふ、いふ、いふ、いふ、  
と、神、り、いふ、是、いふ、福田氏、佐古の社  
宗致、後、いふ、と、いふ、いふ、福田氏、子孫、後  
表、いふ、出、海、の、節、佐、鴻、と、いふ、立、し、いふ、  
前、夜、御、理、由、有、り、いふ、

佐古社、いふ、海、の、神、の、由、理、  
御、理、由、有、り、いふ、

初、日、つ、た、光、いふ、四方、いふ、や、いふ、  
と、流、し、と、いふ、先、いふ、仙、波、夜、軍  
操、多、湊、の、働、天、下、いふ、隠、いふ、いふ、衣、勇  
の、名、代、いふ、子、孫、永、く、榮、久、の、事  
神、祖、の、意、漢、いふ、いふ、  
法、少、納、いふ、いふ、と、決、列、いふ、有、と、も  
云、是、の、いふ、いふ、いふ、毎、いふ、初、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

送、り、いふ、いふ、例、少、いふ、いふ、



慶元拾遺不承是く拾遺

慶元拾遺大政卷之拾六

- 一 勅使大坂に詣り向の事
- 一 城中に不承大矢を發せし事并和膳内意
- 一 城中に和膳の發請り評定の事
- 一 將軍森西不同人の事并赤帝老院
- 一 阿茶局城中に入和膳お洞事
- 一 其田河内守月内託留立の事并
- 一 尾馬の佐其の事并物済の事
- 一 和膳お洞所折之河内及智一に判え

兄の件況

一 行洞名并禱波以就の事

一 大坂陣地埋以事行の事并鴻津

陸奥 志岸の如田園に作行事

一 大智 修理織田有楽園東市陈安

以系上 即日兄修理以懇し

上之の事

又え拾遺之成是之拾い

一月十有 初段廣橋之御之華結之三條

之御之實際之茶田山の以陈安之来

智有之曰字之守其故亦年之方

也之り之哲京取之向り体是也之り

若又城兵一和波の事有之、初代

トして和波候也之り也之り此等以り

大寺所候相討之り、勅書之り

之り、其、陈軍之り知也之り亦陈場

亦旅之有和波の事万一初代之り

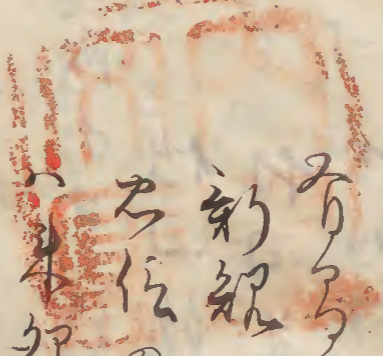
これに天子の命に依りて  
治すこと、物に應じしを  
作らる

一 行相帝正、曰京橋口子備へたるは秀頼  
と、八月、其國の初、毎月、奉請有を  
知りたる事、其れ、曰身を、床に入石火  
矢を、取これ、是、雷電の、とく、鳴る  
時、症、及、味下の方、子と、見、ん、と、て、天、吉  
と、と、れ、り、り、石火矢の、玉、二、重、月、の、程  
と、折、折、ト、子、后、り、竹、女、武、人、忽、移、り  
如、く、碎、矢、り、り、味、中、忍、ん、夕、定、成、も  
と、き、又、有、る、こ、天、守、と、り、御、田、有、示

又野修理を、と、白、く、我、の、信、其、の、娘、也、と、  
傳、井、其、政、の、娘、也、と、一、方、の、軍、中、討、死、と、  
と、し、と、是、よ、今、味、下、の、方、を、守、り、て、天、運、の、  
心、を、か、り、て、是、たり、也、秀、頼、と、共、り、  
和、成、の、事、代、也、也、と、し、て、中、に、これ、り

傳、曰、後、是、無、事、仲、方、味、中、の、門、下、事  
村、田、米、村、村、系、は、い、き、西、河、不、と、と、小  
和、和、淡、と、也、及、呂、台、の、方、有、示、修、理、と、  
平、家、は、但、一、馬、味、中、毫、后、は、人、也  
石、磯、也、敏、兒、也、と、秀、頼、と、其、國、の  
人、也、と、定、め、り、ん、大、和、郡、山、は、不、智、の

有る所を以て内言さるる以上野分  
店に師方途中紙なる也今より又中  
紙紙筆の作は版圖系と白子細  
有りたる交ひ但し只今途の所紙の介  
新紙小二十箇に如信りたる今交  
右紙の浪人甚く忠願の如交思ひは是  
の事卯年の秀頼と吉年のト並有  
り且依く彼是れり成送しその同小  
城中に同小中策を以てしとて  
かりと凡紙ある作は浪人何の好  
有し抱重るしとありいと備あり



らるる事とれみなり  
又一説小秀頼入城の味成は浪人有  
妻房上総二箇に追とれあるとの作  
入はとかり秀頼の四圍に内部の國々  
は中園東へと白い不て有りといふ事  
將軍家ハスミと怒り有く牧野清左衛  
福富家ハ西人を右左の上板の陣ハ又尚を  
所入直さの忠作りしとてしとてし  
行桐の陣味成追し其と案門首之母儀の  
后身ハ危く國難しと云く所明事とて中  
作りし依く諸炮略殺十人獲し先手前

板の橋と揚ス弓三百枚圓扉一々揃へ  
七段の改放一掛れ箱寫誤る母儀の  
正座不の橋小中已張なく橋を解く  
其言を少たうと百子の雷の地小房うと  
侍女七八人打敷たり身負捨人其外女  
童部おめうとつたゆ事張りなり此後  
うまし母儀と此の外弱宗られいふとて  
和隆の事代潤く一と由秀頼と一作送る  
七段の旗を工実うと此れ出と掛田之燈  
あ出し事と中遠よ秀の程と此の事  
笑百る小怒くゆと中知うと此後得て

市令及膏味小積篋り本園と欲小夕の  
事令く運成ゆとくつとあふあゆと只  
右園の建戒と守上以味とく積墓と  
定めお早くと歌はり中なり不空のう素  
調いとん和隆の法合破々魚と宣ふ  
田丸るこよ也と入先退生とくお流り  
上とは併新系者小刺してれ時巨乃  
詞をうんと田後為代清くハ洋む魚と  
築少代呼あく勝代抱く為人法活く  
いふ宣く和隆代至満園の久名と起  
それ後事年中急悔く不さ小宗を



其上代水くやうなる其変有りとは却て  
追々流事とせしむと云秀頼も今  
公解免角名差等不恒とて魚一表行洞  
う流代父と今史樂の只一死死しとて  
流代流しう清人は少代君のふ実  
なりと流代おろし各は前代立たりぬ  
傳曰るし追々めく母とれ言の言  
秀頼も中々秀頼は合点なり  
併新系の有の前好ハいと西身  
付西一の存身 匿し介り時小六日  
流流中流只今追家手は久居れ

内その人も内通外しと頼玉葉下  
流山なりと中せと是と限わ  
事なり其上難流も修多しれハ  
味中の清人平小能ハ有張小味味  
の熱入物とせりて城田は向小と書  
其の持はめく白記吹貴と三度両て  
名し初ら事流入り小似たりとて  
とも欲ふ名知し人事後那とせれ  
うとれなりと又流代を抄出公事  
其和煙の沙はありと必平用小了れ  
魚一流くと是抄出さ、急刑罪

たるやと望く別心は先づ悦のし  
の海よりおそれとて威の事以恩の  
おこりてに四歌を攻寄せ合戦の  
時と陣中の女童部小むらゆり力  
とらへし防敵の如小長門長仇言と  
祿一先白の祿前小入女成若小市  
以成を祿とせ外辰なる中凡少あり  
是の歌とや及人味方とや也ん  
久小少之難し入りらの有さぬり  
ふ物介れ、次の恩軍何とと余  
と推く防敵の右後代とてんや

始取薙味如たさ事、小存のよこ  
軍事と作られ時節を以て如た  
有示、治理を成る成と思ひ  
大御不七勿小如久、重成、西行あり  
天下自らと入城、功成、侍りしと  
侃諫仕、い注、飯、小秀頼、このはめ  
小於、く、園、赤、下、向、有、下、あり、く  
以、斗、の、ひ、と、作、れ、し、有、秀、頼、と  
あ、と、和、平、の、身、大、形、は、形、川、あり、と  
ッ、ヤ  
又、同、如、軍、家、小、は、和、睦、の、河、原、川







浮竹と云ふ人と思ひ只今和親有る  
何國も能く事作らむと申され  
注良別有示渡理并七但の士我百其  
儀をされり、浪人共中、二三年も  
城へ遷代候、運代候、さうさ  
和儀をさすかと思ひ、中中とも有樂  
御理七但の士等和儀を候ひ、此  
中へ入れり、秀頼平のさう、大坂  
亦、長とも皆旧地代候、浪人も  
久し、永く和親有る、と合はれ、  
大御不極、伊豆、和親のさう、さう

既、和親、永く、干又、上、秋、吉、卒、小  
命、一、惣、海、代、譯、不、以、要、害、代、壊、く、人、  
の、難、ひ、を、さ、す、ら、す、と、注、良、和、親、  
を、候、ひ、他、の、思、慮、致、し、作、小、注、ひ、年、々、と  
和、親、を、候、と、申、と、此、旨、を、さ、す、ら、同、一、九、百  
對、注、良、一、岡、東、方、人、數、を、以、く、惣、獲、ひ、と  
取、拂、也、保、内、の、人、數、も、二、三、の、九、層、冊、と  
取、拂、也、さ、ら、な、り、為、之、海、津、出、馬、の、旨、下、を、信、立  
り、其、上、和、親、候、未、だ、洞、山、候、と、申、候、也、  
又、方、事、と、云、ふ、也、

明、若、授、取、お、ら、り、や、上、野、取、作、候

此通は是れ中山州大方向同様に  
由人をして山口より進み此所迄  
上列の工作進めしむるに  
御月十九日

御月十九日

如唐

有樂判

後藤庄之御版

此状前の如様

此の事は皆くも此江事にて成る

〜とある事は此の如く  
年寄殿より得頼申上り候得之

堀田景書判

高利判

二月十九日

大野為人判

宗利判

中嶋水部少輔

正判

野村伊予守

吉安判

伊予丹後守

其六判

青木武部少輔

一之判

速原甲斐守

守之判

後飯庄三郎

二 同日 將軍家の東の陣場は巡見有る  
作向工田河内守は秀地を築り味り  
進有るなりとて常々なりは月自前より上水  
被くも評飯仕其後斬り此に河内守甲斐

い手に味中本村其つちつ物足るは只今  
あし惣攻とんは觸りて則本村少輔  
く働く魚しは本築の軍村の軍術  
とりていし中へれ一其本村と後原と交  
し合ひ控名代後代本城一交り  
と信本法生しはなり是は皆あらしは  
河被流の上瀬科有本旅し一切後  
作自とて是は本及以は義各巨頼の  
し中い自と上水及びは守自及席  
とい由と上は將軍家勇く交り  
深小是は本有一入の心賦陣結くは河

今より一ヶ月ほど前、御座る方有りしと云ひ時、  
河内守十之藏舎内記十之蔵八郎

今日三田伊豆守佐幸、森長久、馬  
但守中田、藤後、柳原、石見、不交、  
武切、者、これ、陣中の、換、砲、も  
島、占、其、仕、事、を、自、換、砲、と、知、せ、り  
伊豆守、う、あ、是、何、門、守、門、記、五、人  
是、中、と、し、と、も、軍、中、小、和、一、持、揮  
身、々、新、志、し、勇、し、あ、ね、ん、た、利、  
多、上、極、も、伊豆守、う、子、供、不、あ、の、  
御、感、な、り、与、人、共、小、三、田、九、郎

及、以、成、就、上、と、し、と、も、御、免、江、守、  
之、服、手、小、備、小、三、田、五、郎、作、不、村、  
其、つ、ち、と、秀、頼、公、の、御、座、三、田、守、  
続、く、也、り、款、陳、氏、名、後、一、不、村、  
三、田、あ、の、三、田、之、旗、一、也、一、  
所、小、五、郎、の、依、苦、く、と、某、う、久、伊、豆、守、  
カ、子、あ、く、い、又、乞、年、小、及、い、病、守、  
守、軍、代、と、し、と、も、出、い、是、中、守、  
万、瑞、見、朱、比、一、と、云、言、成、快、く、  
取、い、甥、子、あ、く、い、式、滿、卒、小、か、り、  
勇、後、幸、と、い、必、矣、砲、と、い、因、於、氏

但しと中御を幸村うらな  
さうらぬ借とも上の正ためいとも  
後言ふ事なり討死にとも一いつ  
改切入りと云々と云

一同女日秀頼公の使りて常光院二位  
の局容陽局或人傳中分出て其  
子米津殿三郎銀子三葉を秋片と又  
大野徳理嫡子信徳とて掛田有示子  
織田氏為守とてい人質或人共不多  
上野女日領りて  
此り若狭殿ら一書に流被ん中

秀頼公一版赤白とい外條教  
本上列述中山有河相後正比  
子の市守の委細を使はし中述  
七位清之

初月廿日 如序

有示判

入野徳理之文

後判

後判

一月廿日 海江相 晴如洞正新門所及部











御前へ出。礼儀と云下。人少小  
百連。身三次の間の流小笠原八幡記  
身曰少も脛せころ勇身又文箱を  
頂小殿の事結はく吾身は  
て安はぬを是知勇力兼働也  
身七生玉明神一在代々家来  
云の事 神と致言ころ介りたれ  
卯万事一由徳ハ  
板食り切一品一ツ件の宛不の左  
累のしと云  
一 御和膳調上付行桐名身占十清庄屋

金田惣兵衛と使と云下多又子内く  
中入くいさく某身御怒意若身通く  
御膳中息口と関中候有身御  
御和膳と及いハ一人若小通塞仕  
身御新極は極成事細く再急中連ハ  
存 上少小遊下ハ板ハ 上定片桐名  
今及の首尾関う尔身米作合れハも子  
お遠れ一万事折る知くハ仕合形也世ハ  
物事ハと云別く忠勤ハ 忠白中遊若  
身付ハハ御名云とお勤と足身若小は文  
中上たり取小甚候も正儀と云

一月廿一日 松平中總督 印多其後 与 游川身前  
作久間 河内守 山平新 西條門 伊藤 石弓先 安  
治之 水田 長島 山岳 中守 佐 合 兵 乘  
久坂 津路 七 塚 八 門 攻 野 語 一 一 軍 勢  
糧 薪 代 割 也

一月廿二日

惣 歩 隊 中 少 佐 以下 掃 地 所 以 作 自  
了 然 山 河 内 國 才 百 姓 苦 不 多 及 事  
久坂 諸 人 於 國 一 以 中 山 高 相 成 也 前  
以 作 自 山 岳 任 事 願 以 事 以 上

十二月廿二日

如 高 有 示 判

大野 修理

治 判

印 多 上 野 女 友

一 鴻 津 方

急 反 中 入 山 仍 大 坂 以 後 以 証 更 於 汝 以  
乃 何 方 進 以 出 証 以 苦 不 一 以 海 國 之  
有 方 而 急 以 有 山 間 之 以 得 以 之  
以 國 許 一 以 下 之 如 以 志 惟 許 之

十二月廿二日

印 多 上 野 女

三 氏 判

鴻 津 陸 奥 方 友

津津陸奥書之船七百艘豊前肥前  
海濱之舟九列の舟船二艘余被念の津  
之原辺より岸上野久迄被念の津  
以和勝し上田園に任し他は 作出られ  
以和勝し遠くの波濤を境より米り歌の  
籠るよ見たりとく田園とるよし

以林被念すし 入野所被念  
以上諸舟 舟目見し被念未し人  
舟し上り上列以被念し上り上り  
以及之被念し被念上り上り上り  
以被念上り上り上り上り上り

十二月廿二日

入野修理更

治生判

如唐

有樂判

後教店三節版

一廿日 御回有市次入野修理更 舟目見  
とく 舟 陳營小桑上 是後二つ 進上  
不夕 佐渡寺 友堂 和泉寺 振抄とく 出席  
舟 別 出され 作白 沙 孫 婿と 申 是 舟の  
秀 船と 弓 矢 舟 事 吳 國 延 舟 少 忠 友  
以 思 白 以 思 吳 國 舟 以 和 勝 舟 便 悦 舟 思 白



慶元拾遺  
不叙是之  
拾六

